

## 校長通信②

### 喬木第一小交流

4年ぶりの喬木第一小学校との交流を6月1日に行いました。私も初めての交流参加ですが、両校とも3年生以下の児童や職員の多くも初めての交流だったので、職員の方が「どんな交流になるのだろう」と不安を感じていたようです。子どもたちも当初は様子を探るような感じでしたが、時間が経つにつれて、子どもたち同士で遊び方を工夫し、夢中になって遊ぶ姿が見られました。1年生の交流の様子を見に行ったところ、ある子は外で虫取り、ある子はお気に入りの本を読む、ある子は鬼ごっこをするというように、本校の子どもたちの好きな活動に第一小の子どもたちがグループごとに参加していました。その中で、車椅子の児童と遊ぶグループは、カラフルな布を結んだバルーンをひらひらさせていたのですが、車椅子に乗っている友だちの様子を見て、「車椅子の上でひらひらさせるといいんじゃない」と言って、車椅子の上でバルーンをひらひらさせてからふわっと顔の方に落とし、車椅子の子も楽しそうな表情になっていました。1時間ほどの交流でしたが、大人の心配が杞憂に終わるほど、子どもたちは子どもたちなりに考え、工夫して、交流を楽しんでいました。大人はついつい何か形になる結果的なものを求めてしまいがちですが、子どもたちが交流する姿を見ていると、その場でのやり取り以上にお互いの心に残るものがあったように感じました。これから喬木第二小や中学校との学校間交流が行われますが、子どもが交流を通して互いに感じ合えるものがあることを願っています。

